横浜市立相武山小学校

学校だより

５月号

令和５年４月２５日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～

「 休 み 時 間 」

学校長　後藤　直樹

新年度は好天にも恵まれ、順調なスタートを切ることができました。子どもたちは新たな学級集団の中でひと月を過ごし、緊張感もほぐれ、慣れてきたところです。昨年度末、職員の話合いの中で、週に一度の「ロング昼休み」導入が決まりました。始業式の講話では、時間を大切にしていこうという話をしましたが、その中で先生たちからの時間のプレゼントとして、毎週木曜日が「ロング昼休み」になることを伝えました。

その初日は、たまたま給食開始の日とも重なりました。初めての給食をほとんど残すことなく食べた１年生も、３０分の休み時間を満喫していました。上級生たちも今までになく多くの子どもたちが校庭に出ていました。風もなく、穏やかな昼休みを精一杯楽しんだ子どもたちの顔には、自然に笑顔がこぼれていました。私が嬉しかったのは、一緒に校庭に出ている先生の多さです。汗だくになって遊んだ後の５校時目はきっと疲れ切っていることかと、教室を回ってみると、そこには笑顔のまま一生懸命に学習に臨んでいる子どもたちの姿がありました。気のせいか声も大きく生き生きしているように見えました。

コロナ禍のマスク生活で、一番影響を受けたのが、コミュニケーションであったことは間違いありません。良好な人間関係は、互いに笑顔で関わる時間を共有することで自然に生まれるものと考えています。輪になってやるようなゲームは、こうした意味では理想的です。年度当初、各担任はそれぞれの学年の発達段階に合った関係づくりの時間を意図的に設定することで、学級の子どもたちが少しでも早く環境の変化に適応できるようにしていました。１年に一度のクラス替えは、こうした人間関係を再構築する場面を通して、関係づくりの方法を獲得していく貴重な機会であるとも言えます。

文部科学省が提唱している「対話的で深い学び」を実現する上でも子ども同士の良好な人間関係や信頼関係は不可欠です。「休み時間」は単なる休憩の時間であるだけでなく、貴重な関係づくりの時間であるとも言えます。

思い思いに昼休みを楽しむ子どもたち